

和
やわらぎ

SSKP

発行
全国脊髄損傷者連合会
神奈川県支部
〒246 横浜市瀬谷区上瀬谷町26-28
電話 045-922-6324

編集人
山崎 昇

ホームページ <http://www.maxhi-ho.ne.jp/yawaragi/>
メールアドレス yawaragi@max.hi-ho.ne.jp



クルージングをおえて 「ハイ、ポーズ!!」

第四回総会 香川県大会に参加して … 3

支部長 山崎 昇

山崎昇支部長再任される … 4～5

事務局長 妻屋 明

医療セミナー … 5

「褥瘡のラフ療法について」 文化部

「生まれ変わった」 … 6～7

小田原駅 副支部長 路川十九夫・みどり

マリンルージュで … 8～9

クルージング & 中華街でディナー

川崎協会 深谷 勝雄

JAF・ニッシン自動車無料点検 … 9

赤い羽根共同募金に参加

災害の体験と防災体験 … 10

TOTOのモニター募集のお知らせ・

会員動向 … 11

乗る人、乗り方、いろいろあります。
たのしいクルマ、いろいろ作ります。

●スポーツウェア

●Tブリテール電動4輪車



たとえば段差昇降機や電動クルマ椅子など、
介護をする方にもされる方にも、便利で高機能
な商品を集めました。



福祉車輛のお求めや改良に際し、国や地方自治体では各種貸し付け・助成制度や優遇税制制度を用意しています。助成条件のご案内はもちろん、申し込み方法などお客さまと一緒に考えて参ります。

スタッフは福祉車両改造のスペシャリストを始め、日本
チェアスキー協会会長・元日本障害者スポーツ協会理事
伊佐幸弘氏など、強力スタッフ陣がお待ちしています。



グッドオープンエアズ・マイクスと連携、
初心者から楽しめるスポーツ&レジャーを
ご紹介。バスケットボールやチェアスキーは
当ショップのおすすめメニューです。

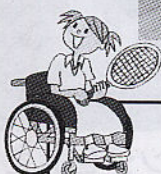
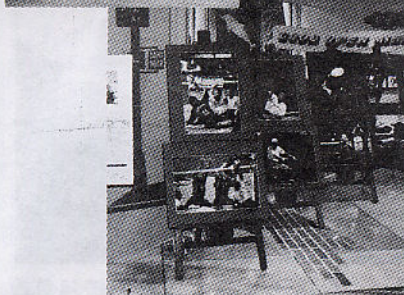
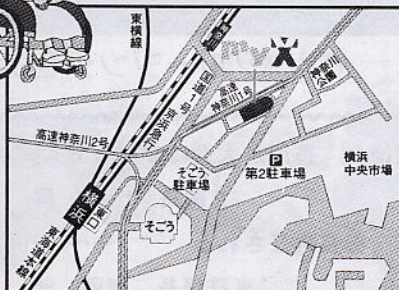


Photo:プリウスS 助手席回転スライドシート車
"Bタイプ"(車いすはオプション)



横浜市神奈川区栄町7-1 マイクスビル2F TEL:045(459)2112
営業時間/10:00~20:00 www.kanagawatoyota.com



TOYOTA 神奈川トヨタ

第四回総会 香川県大会に参加して

社団法人 全国脊髄損傷者連合会

神奈川県支部長 山崎 昇

平成十七年度第四回総会香川県大会は、五月二十六日(木)～二十八日(土)までの三日間にわたり全日空ホテルクレメント高松で開催されました。

ホテルは、最近オープンした新しい建物で、全面バリアフリーになっており、部屋も広く、手洗いにも車いすで入れる事ができ、利用しやすいホテルでした。

今回、出席支部は三十支部、委任九支部。神奈川県支部からは、支部長山崎、副支部長路川が出席致しました。

第一日目は、参加者受付があり、十五時より十七時まで各県支部代表者会

議、総会の議事運営についての会議、その後ホテルに隣接しているシンボルタワー内の全国的に有名な和、洋、中華等の専門店で夕食。私は讃岐うどんを食べました。昼食も高松空港でうどんでした。本場は違うようでした。帰りのタクシーの運転手の話では「安い店のうどんが一番美味しいのですよ」と言っておりました。

第二日目は、午前十時より式典。開会宣言、黙祷、来賓挨拶、理事長挨拶、感謝状贈呈式と続く。今回、神奈川県支部は該当者はいませんでした。

休憩後、記念講演。佐々木安徳氏が「一生懸命から精一杯」(香川県仏教

会副会長 真宗興正派・専光寺住職)と題して講演がありました。記念撮影をし、午後よりいよいよ総会となりました。

例年同様に、開催県と次回開催の山形県支部長が議長となり、議事がすめられました。前回同様、障害者用駐車場の障害者以外の使用について、各支部より強く意見が出され、議論されました。

最後に平成十八年度第五回総会は、山形市で開催しますので是非皆さん大勢参加して下さい。山形県支部より「山形名物のいも煮会、サクランボ狩りを計画していますので」と挨拶がありました。神奈川県支部の皆さんも是非来年はご参加下さい。

総会の議事結果については脊損ニュースに詳しく載っておりますのでそちらをご覧ください。

山崎昇支部長

再任される

第27回支部総会報告

事務局長 妻屋 明

平成17年度の事業計画や予算、新しい支部役員を決めるための第27回神奈川県支部総会が去る6月11日に伊勢原市の「フォーラム246」において開催されました。総会では、平成17年度の支部役員改選が行われ、山崎昇さんが引き続き支部長に再任されました。また、その他女性部長を勤められていた赤城喜久代さんは、新しく副支部長に選任されたほか、厚生福祉部長には山崎敏夫さんが、監査役には路川みどりさんがそれぞれ新しく選任されました。

新しく選任された各役員には、今後2年間にわたり神奈川県支部の運営に携わっていただき、事業を推進していくことになりました。

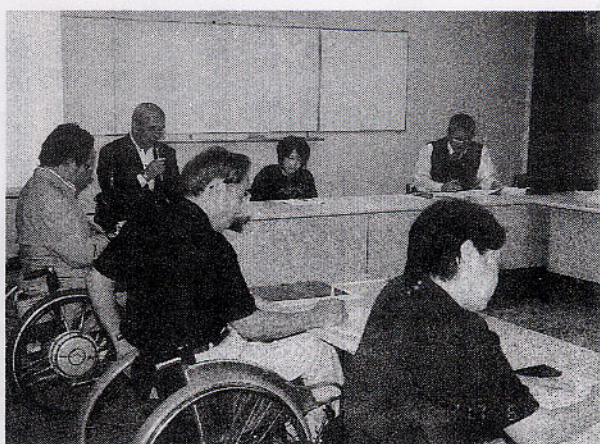
『支部総会のあらまし』

午後1時から開催された支部総会では、まず、山崎支部長の挨拶が行われた後、議長に横浜協会の鈴木滋美さん

が選出され、議事が進められました。

第1号議案の平成16年度事業報告では、「支援費の行方」と題したセミナーを開催したことや、湘南協会が主催した「地引き網とバーベキュー」また、横浜協会が主催した「横浜港のサンセットクルーズ」、更には神奈川県リハビリテーションセンターで開催した、自立生活を長続きさせるための「リハビリ講習会」など、平成16年度の多彩な事業活動が報告されました。また、2号議案の決算報告では、会費収入89万9千3百円や共同募金からの助成金収入50万円などを含む総額326万1千212円の収支決算が報告されました。また、この報告に伴う会計監査報告が行われ、事業報告、決算報告、監査報告の3案が一括して採決が行われた結果、全会一致で了承されました。

3号議案の平成17年度活動方針及び事業計画では、支部会報「やわらぎ」の発行、関東ブロック会議神奈川県大会の開催、医療セミナーの開催、支部ホームページ「和の広場」の運営、障害者用自動車の無料点検サービスの実施など17項目の事業計画と6項目の活動方針について山崎支部長が趣旨説明を行いました。4号議案の平成17年度予算については、町田財政部長から総額262万8千6百93円の収支予算



総会風景

案の説明が行われました。その結果、平成17年度事業計画案及び予算案ともに全会一致で了承され、平成17年度の支部活動体制が整い、支部会員各位のご支援を戴きながら本格的に活動が開始することになりました。

『支部総会の資格審査について』

○支部会員数4月1日現在：144名
○会則第10条2項による総会成立の定足数：73名
○総会出席者数：19名
○委任状提出者数：69名
以上、出席者及び委任状提出者の合計が88名となり、今総会は成立しました。

第5号議案の支部役員改選により、平成17年度支部役員は次のように決まりました。

支部長	山崎 昇
副支部長	路川 十九夫
副支部長	赤城 喜久代
事務局長	妻屋 明
財政部長	町田 安男
労働福祉部長	新田 輝一
厚生福祉部長	(新) 山崎 敏夫
文化部長	大井 知子
体育部長	(兼) 路川 十九夫
女性部長	(兼) 赤城 喜久代
監査	杉山 光子
監査	(新) 路川 みどり
(協会長)	
川崎協会長	名和 久男
横浜協会長	(兼) 新田 輝一
県央協会長	(代理) 路川 十九夫
湘南協会長	森田 久一
西湘協会長	(兼) 山崎 昇

医療セミナー

「梅毒のラップ療法について」

文化 部

総会終了後、長野県松本市にある相澤病院 褥創治療センター統括医長 鳥谷部俊一先生に講演していただきました。

患者を対象にした講演は初めてとの事でしたが、「テレビアの泉」の「ヘー」の練習をさせたりと、とても親しみやすく楽しい先生で、パワーポイントを使い画像を見ながらわかりやすい説明がありました。

褥瘡は見慣れているはずですが、大きな褥瘡には目を背けたくなる様な事例もありました。使用器具も百円ショップの物を使い材料費も僅かで済みます。ラップ療法はとても画期的な治療法です。大きな傷でも手術をしなくても治るようですが、時間がかかりすぎるところが難点といえるでしょう。

また、講演終了後の質疑応答は身近な問題だけに活発に行われました。展示品の材料を使い実際に傷をみただき、指導を受けている人もいました。全国でこの治療法を用いている医療機関は117カ所あり、県内では次の病院

の先生が治療をしています。

○茅ヶ崎徳州会総合病院

内科 国本 栄治先生

○相模湖町国保診療所

外科 土肥 直樹先生

インターネットで調べるにはヤフーから「じよくそう ラップ療法」と入れ検索をクリックすると調べられます。セミナーには茨城県支部からの参加者を含め25名が参加しました。

懇親会

鳥谷部先生にも参加いただきました。セミナーの時間内で尋ねられなかった疑問点などを、聞いていた会員さんも見られました。美味しいお食事と、皆さん自慢ののどを披露されカラオケで楽しいひと時を過ごしました。



先生にアドバイスをもらう会員

アコム一ホ増黒田小の鶴山嶺大

「生まれかわった小田原駅」

副支部長 路川 十九夫

みどり

前々からバリアフリー化した小田原駅の状況を調べに行かなくてはと思いながら、残暑が厳しく予定がつかず延々になってしまった。

最寄りの小田急線本厚木駅から乗車する事にした。慣れない手つきで小田原行きのキップ大人二枚を券売機で買い求めた。改札口のインターホンで「小田原に行きたいのですが」と声をかけると、青い扉が開きエレベーターでホームに上がった。

エレベーターの広さは普通車いす二台が何と入れられるスペースである。ホームの六両目あたりに渡り板を手にした駅員さんがまっていた。10時7分発の急行小田原行きに私たちは乗った。通勤ラッシュを過ぎていたので割合空いていた。

車窓からの景色は秋を感じさせるコスモスの花がやさしい風に揺れ、土手には真紅の彼岸花が咲き乱れ、田んぼの稲はすっかり黄金色に色づいていた。電車は自分で車を運転するよりのんびり楽しめるので、私は割合電車を利用する方である。車の渋滞とか考えずに目的の地につける。50分ぐらいで今日も本厚木駅から小田原駅に到着した。

数年前までは、数人の駅員さんにお手伝いをいただきき車いすごと担いで降ろしてもらっていた。小田急は他のところより一足先に工事が始まり、エレベーターができていたことは知っていた。実は、桜の季節はここ何年かは小田原城址公園の桜を見に来ていた。

また、支部忘年会に参加するときは、役員会議のため朝から出かける主人を送り出し、午後から一人のんびり電車で「ヒルトン小田原リゾート」に向かった事もあった。その時はまだ工事中で最近の小田原駅にはご無沙汰だった。しばらくぶりで小田急改札を出た途端、想像以上に広く天上がとても高い、自由連絡通路に驚いてしまった。

最初に東口方面にむかい、JR東海道の真上の大提灯を見上げ、観光案内のパンフレットを横目でチラッと見ていたら、マイペースでせっかちな主人はどんどんと先に行ってしまう。「そんなあせることないのに」と思いつつ、あわてて追いかけていった。そこは左に奥まった大雄山線の改札口前で、ホーム内が見え青い電車が到着していた。以前、大雄山線は車椅子での乗車は不可能だというイメージが強かった。

年配の駅員さんを見かけ



大雄山線の小田原駅ホームにて

たので「小田原駅のバリアフリー化を調査にきたのですが、写真を撮らせていただきたいのですが」と尋ねると快くホーム内に案内して下さり、名刺を頂いた。その方は「伊豆箱根登山鉄道駅の駅長さん」でした。大雄山線は始発の小田原駅と終点の大雄山駅はバリアフリー化になっているが、途中下車の場合時間によって無人駅になる時や駅員さんが一名しか常勤していない駅もあるそうです。でも前

もって連絡すれば対応してくれるそうです。

ホーム内に設置してある車いす用トイレについてに見たところ、広さが十分に確保されており使いやすそうだった。

つぎに東海道新幹線の改札口がある西口方面にむかった。一般の人は中央にある階段やエスカレーターを利用して西口広場側に行っている。私たちは右端にあるエレベーターを使用した。

長く幅が広いエレベーターで乗客用というよりは業務用のエレベーターという感じがであった。新幹線改札は左側にあり両方からすれ違えるほど幅広であった。

周辺には箱根・小田原名物のそば屋やベーカリーがある。少々疲れてきたので、コーヒータムにして喫茶店に入った。

広場に出てみたが、以前と変わりなく昔からある松の木、ロータリーと「北条早雲像」がなつかしく感じた。今後、駅ビルなど着々

と工事が進んでゆくようである。

帰りはふたたび小田急線急行新宿行きに乗り込んだ。

この列車の最後部車両は朝のラッシュ時は女性専用車両になっている。無論、私たちが乗った時間は一般車両であったが、たとえ女性専用時間でも車いす使用の男性と付き添いの男性は堂々と乗車できる。小心者の男性には少し気の毒なような気もするが……

また、この車両は左側に車いす専用スペースが設けられてあり、程よい高さに手すりがあり安心してつかまる事ができる。目の高さにインターホンがあり、ボタンを押すと係員と会話できるようである。いわゆる、「ナイスコール」と同様のシステムになっているらしい。

今回、小田原駅を視察にいくと承諾した私たちが本当のところ、電車にて二人で出かけることなど滅多にない。めずらしい事なので、秋晴れの空から大雨で

も降ってこないかと心配もした。

現在、公共交通機関のバリアフリーも少しずつ進歩し、車いすでも外出しやすくなってきたが、乗り換えの面ではまだまだ苦勞をしているのが現状である。

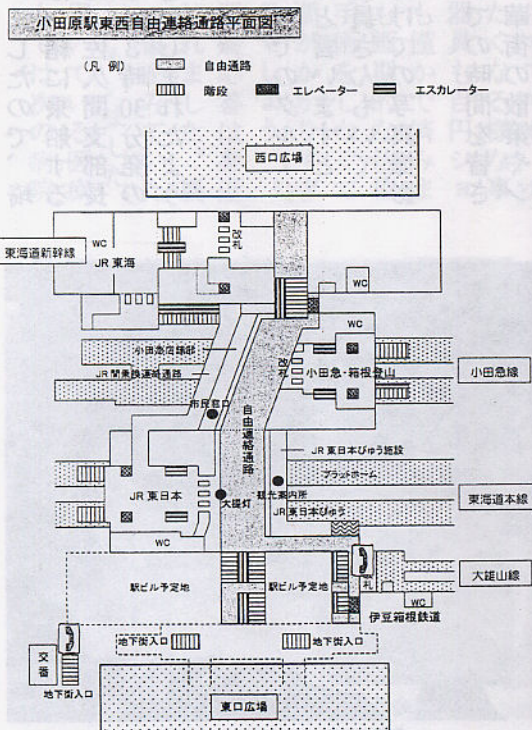
今後あたりまえに公共交通機関を使って、不自由を感じない駅がひとつでも多くなることを望みたい。

帰りがけに本厚木で、たまには一緒に駅ビルの地下で買い物でも手伝ってもらおうか(荷物もち)と思っ

た「私」が甘かった。「先に帰るぞ」とあっさり帰られてしまい、我が家のバリアフリーは永遠に改善する見通しはないようです。



大雄山線小田原駅のトイレ



マリンルージュで

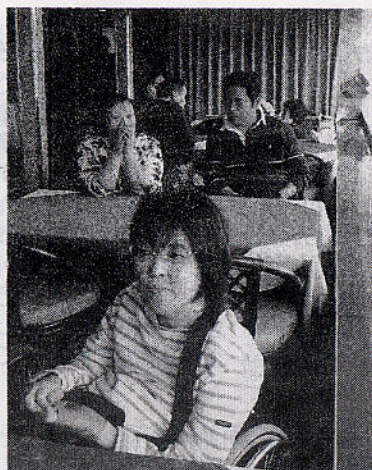
「クルージング」 &

中華街でディナー

川崎協会 深谷 勝雄

今年も昨年に続き、山下公園からマリンルージュに乗船し、横浜港クルージングを満喫する事が出来ました。クルージングに参加された人数は30名で、遠く埼玉県支部からは佐久間支部長以下、お子様2名を含む8名の方が参加をして下さいました。

佐久間支部長からは、「首都高速が事故で渋滞しているので、出航時間には間に合いそうにありません」と携帯



船内にて

電話に連絡が入っていましたので、埼玉県支部の皆さんとは一緒に乗船する事ができませんでした。佐久間支部長御一行の皆さんは、午後3時30分発の船にてクルージングを楽しまれたようです。

さて、マリンルージュでのクルージングを終えた皆さんはと言いますと、早々と姿を消した? 会員さんもいて、公園内におられた方だけの写真撮影となりました。

撮影後、ディナーまでの時間を皆さんそれぞれの想いで中華街の散策やショッピングを楽しまれました。

中華街「萬珍樓」本店には、身障者用トイレが1カ所、エレベーターが2基設置されており車いすを使用している障害者の方でも、問題なく利用できるようになっていきます。

当日の会場は3階のフロアです。事前調査に行った時、テーブルの高さが随分高いと感じましたので、メジャーを借りテーブルの高さを測ったところ80センチあり、これでは低い車いすを使用している方が食事するのは非常に困難ですし楽しくありません。

数日後「萬珍樓」に、「高さ15センチ



「萬珍樓」にて

チで、車いすが乗せられる大きさの台を用意していただきたいのですが可能でしょうか?」と、電話で要請したところ20分後に「サイズは大きくなりますが、高さ15センチの台がありますので用意します」と迅速な対応をして下さいました。

この台を利用された方には、皆さんと同じ目線で食事を楽しんで頂きたいと考えていましたので、即対応してくれたスタッフの皆様、ありがとうございました。

「萬珍樓」でのディナーにはお子様1名を含む38名の方が参加をして下さいました。料理(メニュー)は5千円コースでしたが、それなりに楽しんで頂けたと思います。

お食事は日頃、余り会う機会のない会員の皆様が、料理を楽しみながら、互いの近況を話し合い、親睦を深めることが目的ですので、こういった催しは毎年あっても良いのではないかなと個人的には感じました(それは絶対無理ですよねえ……)

お料理を食べる合間には、帰りのお土産を注文されていた方も何人かおられました。

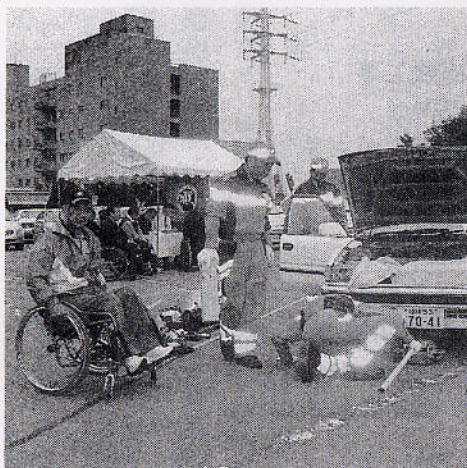
ディナータイム終了後に、ある会員さんが「来年もやりましょう」と、大変ご機嫌で話されていました。またいつの日か、皆さんと中華街でのお食事ができる事を楽しみにしております。

最後に、参加をされた大勢の皆様方、ありがとうございました。

JAF・1/13(土)自動車無料点検

10月22日(土)に、神奈川県総合リハビリテーションセンター大型駐車場において、JAF・ニッシン自動車のご協力により無料点検が行われました。当日はセンター内にある、七沢学園、七沢更生ホーム、七沢ライトホーム、3施設合同の文化祭と重なりました。そのため駐車場は大変混み合いましたが、JAFの方に交通誘導・交通整理にも一役買っていたいただき、無事故で終了できました。

小雨の降るあいにくの天候でしたが、会員その他の人も含め70台もの車が点検を受ける事ができました。



点検中のJAFの人たち

赤い羽根共同募金に参加

今年も10月1日より赤い羽根共同募金が始まりました。

支部では昨年同様、横浜駅前、本厚木駅前、相模原市役所前の3カ所で活動を行いました。

この活動は支部での伝統行事になっております。障害者でも社会に貢献できる活動です。これからもこの活動を続けていきたいと思います。



厚木駅にて

災害の体験と防災体験（1度体験してみよう）

神奈川県障害者社会参加推進センターの指導者研修会が、県防災センターにて行われ支部より3名が参加しました。ここでは臨場感たっぷりの体験コーナーがあります。

地震体験コーナー

関東大震災、阪神淡路大地震、神奈川西部沖地震（想定）した地震が体験できます。ここではテーブル・冷蔵庫などは固定されていて動かないため、掴まる事ができましたが、自宅では固定されていないと動くので、安全な居場所の確認が必要と思われる。

風水害体験コーナー

風速 30 メーターまでの風水害が体験できます。雨は体験しませんでした。カップが用意されていますので着替えれば可能です。

煙避難体験コーナー

迷路のなかを鼻や口を塞いで避難するわけですが、車いすを動かすことが精いっぱい、塞いで動くことはできませんでした。バックの中にバンダナとか大き目のハンカチを入れておくと良いでしょう。

阪神淡路大震災、新潟中部地震からの教訓

- 教訓 1 自宅の耐震性を高めよう 耐震診断・耐震補強工事
- 教訓 2 家具は凶器になる。転倒防止や置き場所の工夫
- 教訓 3 地域の力で命を救う 日頃から地域の人との交流が大事
- 教訓 4 災害関連死を防げ エコノミークラス症候群・脱水等
- 教訓 5 絶対に火事を出さない 避難するときは電気のブレーカーを切る
- 教訓 6 安否確認は171

平成 10 年 3 月から NTT が災害用伝言ダイヤル（171）を

平成 16 年 1 月から NTT ドコモが携帯電話 i モード災害用伝言板をスタートさせた。

震度 6 以上の地震や台風などの大規模災害が発生すると開設される。

(1) 災害用伝言ダイヤル 「171」

- 伝言の録音方法 171→1→市外局番からダイヤル→伝言を入れる（30 秒以内）
 - 伝言の再生方法 171→2→市外局番からダイヤル→伝言を聞く
- 伝言蓄積数は、1～10 個

(2) 災害用伝言板

携帯電話のインターネットメニュー

大規模災害が発生した場合「i menu」のトップに「災害用伝言板」が追加され、利用が可能となります。

メッセージ登録内容 「無事です」「被害があります」「自宅にいます」「避難所にいます」 コメント（全角 100 文字以内、半角文字 200 文字以内）

メッセージ保存時間 登録から最大 72 時間（サービスが提供されている間）

※災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板は、1 月 1 日を除く毎月 1 日に体験できる。

大災害はいつどこで起きるかわかりませんので、最低限の準備はしておきましょう。最低でも食料と飲料水 3 日分、医薬品の準備はしっかりしましょう。

総合防災センター 厚木市下津古久 280 電話 046-227-0001

開館時間 9 時～5 時 休館日 毎週月曜日、毎月第 3 火曜日

TOTOの

モニター募集の

お知らせ

私たちは改めて言うまでもなく、国内でも有数な車いす使用者の集団です。

神奈川県支部の会員の一人ひとりがそれぞれ持っている貴重な経験や豊富な知識を支部として集約すると、他ではなかなか手にすることはできない大きな社会資源となるとともに貴重な情報として社会的にも大きな価値を生み出します。

トイレやキッチン、浴室、洗面所などの商品でおなじみの東陶機器株式会社は、このほど茅ヶ崎市にTOTOユニバーサルデザイン研究所の建設を進めています。これに伴い、TOTOでは商品「テストネットワーク」のメンバーを募集しています。

一人でも多くの人に使いやすい商品をつくるために障害当事者の生の声を聞かせてもらいたいと、TOTO

Oから神奈川県支部に協力依頼がありました。

支部では、私たちが持っている貴重な情報をより有効に生かし、社会に還元するためにこの依頼に応え、このたび改めてモニターを募集することに致しました。

また、支部ではこれに限らず、各モニターになってくれる方々には、福祉機器メーカーなど一般企業の商品開発のためのモニターや研究機関等からのアンケート調査依頼に対しても着実に応えて頂くなどの活躍をお願いし、障害当事者が持っている価値の高い情報を社会に提供していきたいと考えています。

支部で募集する人員は何名でもかまいませんが、TOTOでは当面手動車いすの男性3名と女性3名。また、電動車いすの男性3名、女性3名を1グループとして2グループの計24名を募集しています。商品テストに参加した場合は謝礼や交通費が出ます。

申し込みについては改めて各会員に手紙でご案内致します。

お問い合わせは、支部長又は事務局までお願い致します。

◎ 0465720478
山崎支部長まで。又は、
◎ 0459226324
妻屋まで。

【モニター登録について】

1、モニター原簿に記入していただきます。(モニターの基本情報)

2、モニター同意書(この同意書には、主に以下のような内容を提示します。)

※各モニターの個人情報に触れることと個人情報の厳重管理と守秘義務について説明。

※調査協力に対価が発生した場合、直接モニター本人に支払われる場合と支部から支払われる場合の説明等。

以上、全脊連神奈川県支部のモニター募集に関するお知らせを致しましたが、支部会員各位のご協力をお願いいたします。

会員 動向

(新入会員)

和田 正男 (横浜協会)

横浜市保土ヶ谷区権太坂

3-8-1-401

竹原 謙太郎 (横浜協会)

横浜市鶴見区朝日町

2-9-6-405

青木 知武 (県央協会)

横浜市都筑区中川

1-2-107

柴田 智子 (西湘協会)

小田原市国府津

2-5-6-4-8-101

(住所変更)

倉島 秀雄 ↓ 川崎市中原

区荻宿2-6-2-7-104

外崎 幸 ↓ 茅ヶ崎市共恵

1-3-3-1208

榎本 実 ↓ 川崎市中原区

木月大町1-2-1-109

(亡くなられた方)

鏡 芳雄

平成16年12月25日

早川 静夫

平成17年9月17日

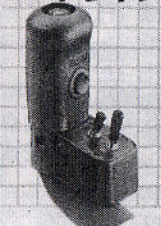
人とともに、 車とともに…。

自由に気軽にラクラクおでかけ、
ちょっと遠出もしたくなる。
そんな快適なカーライフをお届けするために、
ニッシン自動車グループは歩み続けます。

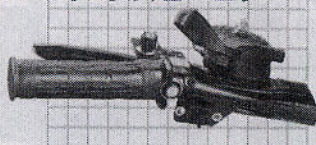


GO TO DRIVE TOGETHER

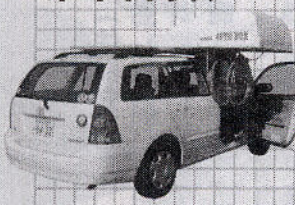
APドライブ



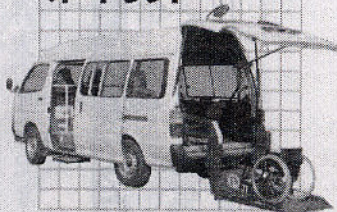
オートスピーコン



オートボックス



オートリフト



手動式運転装置、運転補助装置、車椅子の収納装置、リフト、介護車両、マイセルフ、タクシー等、全国をトータルにサポート致します。お気軽にお問合せ下さい。

福祉車両総合メーカー **株式会社ニッシン自動車工業**

〒349-1149 埼玉県北埼玉郡大利根町豊野台1-563-12 E-mail jikou@nissin-apd.co.jp
TEL.0480-72-7221 FAX.0480-72-7223 URL http://nissin-apd.co.jp

株式会社ニッシン特装 (リフト事業部)

〒347-0010 埼玉県加須市大桑1-17-2 E-mail tokuso@nissin-apd.co.jp
TEL.0480-67-1414 FAX.0480-67-1424

NISSIN JIDOSHA GROUP